

資格の大原

大原税理士受験生のための
情報誌

WIN

2024
受験対策 Vol.4

Certified Public Tax Accountant
information magazine

特集

模擬試験に向けての 準備を始めましょう！



模擬試験に向けての準備を始めましょう！

1 合格答案作成能力とは？

本試験に合格するために必要なスキルとして、合格答案作成能力があります。税理士試験は日商簿記検定3級・2級の様な合格点の存在する絶対評価形式の試験ではなく、受験者の上位約15%前後の方が合格するといった相対評価形式の試験であるため、他の受験生に対して高い得点を取ることが求められます。本試験においては、テキストで学習した項目だけが出題される訳ではなく、かつ、2時間以上かかるようなボリュームで出題されることもあるため、出題された全ての項目を完璧に解答して本試験を終えるということは滅多にありません。そのため、①全体の問題構成を把握し、②得点する必要がある問題には時間をかけて正確に解答し、③得点する必要のない問題には時間をかけずに飛ばす（または途中で切り上げる）といったスキルが必要になります。これらが合格答案作成能力であり、各種模擬試験を通じて身に付けなくてはならない力となります。

大原では、このような合格答案作成能力の養成に向けて、大きく分けて3段階の構成を準備しています。

1 実力判定公開模擬試験

この模擬試験は範囲指定があり、本試験において得点すべき項目の定着度を確認する模擬試験となります。本試験において得点すべき項目とは、テキストに記載されている内容を言います。実力判定公開模擬試験は、基本的にはテキストに記載された項目のみで出題されていますので、その定着度合を確認できる模擬試験となります。

また、実力判定公開模擬試験は、出題範囲表がありますので、それを基に対策をしていくことになります。しっかりと対策をしたうえで模擬試験を受験し、その結果、定着が出来ている部分と定着出来ていない部分をそれぞれ把握し、定着できていない項目については、他の受験生と差になる項目（＝合否の分かれ目となる項目）となりますので、早急な再インプットが必要になります。

2 プレ模擬試験及び直前対策模擬試験

これらの模擬試験は、範囲指定はあるものの、試験委員の先生の研究テーマや改正情報を踏まえた本試験レベルの問題が出題されます。こちらでは実力判定公開模擬試験と同様、出題範囲表がありますが、内容は本試験レベルとなっており、テキストに記載のない項目も出題されます。そのため、プレ模擬試験及び直前対策模擬試験は、時間配分や取捨選択の練習が出来る模擬試験となっています。

※プレ模擬試験の実施が無い科目もございます。

3 全国統一公開模擬試験及び直前予想模擬試験

これらの模擬試験は、本試験と同様、出題の範囲指定が一切なく、テキストに記載のない項目も出題される模擬試験となります。大原の税理士講座スタッフが何度も会議を繰り返して作成した、仮想本試験となる問題です。

	範囲あり	範囲なし	テキストレベル	本試験レベル
①実力判定公開模擬試験	○		○	
②プレ模擬試験 直前対策模擬試験	○			○
③全国統一公開模擬試験 直前予想模擬試験		○		○

2 模試に向けた準備

各種模擬試験は、本試験を受験するときと同じような環境で受けることで最大の効果を発揮します。インプットが不足している状態で模擬試験を受験すれば、取捨選択の精度が落ちてしまうほか、適切な時間配分で解答することができなくなってしまいます。初見で本試験レベルの問題を解答する機会は少ないですので、それを1回でも無駄にはできません。模擬試験に向けての準備はとても重要なものになります。以下、理論編と計算編で模擬試験へ向けた準備について紹介しますので、参考にしてみてください。

1 理論編

① 再暗記する

模擬試験や本試験で理論を解答するときの軸となるものは、これまで暗記してきた条文や規定文となります。つまり、要点チェックノートや理論サブノートを活用した暗記が最も重要になります。税理士試験で合格を勝ち取っていくうえで暗記は避けては通れないものです。

暗記を行う際に、要点チェックノートや理論サブノートを熟読して暗記されている方もいらっしゃると思いますが、ある実験において、インプットの時間よりもアウトプットの時間の割合を増やした方が、暗記の効率が高まるといった研究結果が出ております。要点チェックノートや理論サブノートの読み込みはインプット作業に該当するため、暗記を効率化するためには、アウトプットの割合を増やすことが必要です。具体的には、要点チェックノートや理論サブノートを閉じて、頭の中で暗唱する、声に出してみる、紙に書き出してみるといった行動がアウトプットに該当します。すぐにスラスラとアウトプットをできる方は少ないかと思います。アウトプットを試し、出てこない部分については再度、要点チェックノートや理論サブノートを確認し、再インプットを行いましょう。

暗記のサイクルとしてはこの繰り返しです。ただし、全てを書き出しているのは、労力を大幅に消費してしまいますので、これまで学習してきた中で暗記しやすいと感じた項目やある程度固まっている項目は頭の中で暗唱し、暗記しづらい、まだ定着できていない項目を書き出してみるといった使い分けがおすすめです。また、理論問題集を使ったアウトプットも良いと思います。

次に、インプットとアウトプットの比率については、初心者であればインプット4割、アウトプット6割、ある程度熟練した方はインプット3割、アウトプット7割が効率的であるといわれております。暗記の効率化を図り、頭の中に引き出しを増やしましょう。

② テキストで整理する

暗記（インプットとアウトプット）を繰り返していくと、必ず疑問が生まれてきます。覚えづらい部分や違和感などです。そういった部分については放置せず、テキスト等に戻って確認をしましょう。覚えづらい部分というのは、理解が誤っている可能性や、イメージが確立できていないという可能性が高いためです。これを確認することによりその項目をより深く理解できるようになり、覚えづらさが解消されることもあります。

次に、覚えた内容について、どのような事例や判例が存在し、講師が講義内でどのようなコメントを加えていたかをテキストで確認していきます。これにより覚えた内容をより深く理解でき、忘れにくくなるだけでなく、将来忘れてしまっても理解が進んでいる（イメージが構築されている）ことで再暗記がスムーズになります。

最後に、覚えた内容が、テキストのどこに記載されており、その周辺にはこういった情報があるのかを確認しましょう。論点の幹となる部分の暗記を終えた後に、周辺へ目を向けると、今までになかった発見や、細かな論点にも目が行き届くようになり、周辺に存在する補足や細かな論点を効率的に把握することが可能になります。幹となる部分の正確な暗記とその幹から繋がる枝葉についての整理を行いましょう。これが模試に向けた準備となります。

① 道筋を確認する

計算に関して、ゴールとなる金額を導き出すための道筋（計算過程）を暗記できているかの確認をしましょう。この時に、なぜそのように算定するのかといった理解も大事ではありますが、理解していなければ算定出来ないという訳ではないため、理解を意識しすぎて考えすぎないことがポイントです。

暗記が不十分な項目は、個別問題や総合問題の中からピックアップして、反復練習を行います。理論の暗記とも整合する部分ですが、テキストや問題集の解答解説を見ているだけではなく、アウトプットを意識した学習が効率的です。

② 必要情報を整理する

ゴールとなる金額を導き出すために、資料（問題文）から集めるべき情報を正確に把握することも必要です。解答の道筋を覚えられたら、その道筋のなかで、こういった情報を問題文から拾ってくる必要があるのかを整理していきましょう。具体的には、問題文から拾うべき情報が、日付なのか用語なのかといったキーワードについての整理です。これにより、問題文全体を何となく読み進めての受動的な解答ではなく、問題文を読む際にも目的意識をもって読み進めることが出来てきます。

こういった解答方法が出来てくると、たとえ試験において問題の言い回しが多少変わっても対応できるようになってくるのです。慣れるまでは問題文にアンダーラインやマークを引くことで、解答の際にこういった情報（キーワード）が必要になっているのかが明確になり、情報（キーワード）を正確に把握出来るようになります。

③ 瞬発力を高める

解答までの道筋（計算過程）及びその時に必要となる情報（キーワード）が把握出来たら、その項目を複数回解答してみましょう。税理士試験は、制限時間が2時間と決められているため、「ただ答えが出せる」では、合格答案作成能力として不十分ということになります。2時間という制限時間の中で解答を出していくためには、紙の上での瞬発力が必要となります。これを鍛え上げるためにも、何度も同じ解き方で解答を行いきましょう。

同じ解き方を繰り返すことで、類似問題を見た際に解答の道筋を思い浮かべる速さが鍛えられるだけでなく、解答までのスピードと正確性まで高めていくことが可能です。当然ですが直前期の学習が、最も合否に影響します。闇雲に学習を進めるのではなく、模試の趣旨を理解し、効率的な準備を行いきましょう。

模擬試験は準備も大事ですが、受験しなければ意味がありません。万全の準備ができてから受験が理想ですが、受験が先延ばしになってしまっても本末転倒です。4月を最先発として、順次、各科目の模擬試験が開始されます。いつ受験するのか、それまでにどの期間でどのような準備を行うのか、複数科目学習されている方は各科目の学習比率など、これまで以上にスケジュール管理を徹底しましょう。

また、通信生の方でも模擬試験を教室で受験することができます（お申込みのコースによって異なりますので、詳細はホームページまたは各校へお問い合わせください。）。周りに人がいる中で、緊張感をもって解答する体験ができます。お近くに大原が無いという方でも、大原ではZOOMを使用した「オンライン解答会」というものを実施しております。詳細は合格Webの新着情報にアップされますので、もうしばらくお待ちください。

万全の準備をしてから本試験に臨むように、模擬試験も万全の準備をしてから望むようにしましょう！

O-HARA Career Staff

採用スケジュールについて

税理士業界の採用スケジュールですが、税理士試験と合格発表の時期が大きく関わってきます。試験勉強をしながら、就職・転職活動を行う方も多いと思いますので、ベストな時期を知り効率よく活動していきましょう。

採用のピークは8月と12月

税理士業界の年間スケジュール



採用意欲が高まる時期は<8月>と<12月>です。理由は、税理士試験の受験生の動きに合わせているからです。

8月は、税理士試験を終えた受験生が活動を開始する時期となります。

12月は、「合格科目が増えてから就職したい」という方も多いので、そういった方に向けて採用の動きがあります。

ピークを過ぎると採用は一旦落ち着きますが、予定人数に達しなかった場合や急遽欠員が出た場合、良い方がいたら採用しようという意欲のあるところは継続して募集をかけているので、通年求人は出ているような状況ではあります。

また、新人入社のピークは4月と9月です。転職の方などは個々の状況に応じて入社日が決まる場合が多いですが、大手税理士法人などは、集団研修を行うところもあるので、入社時期をある程度まとめているようです。

また、新卒採用を行っている事務所・法人もありますが、そちらの情報解禁は、3月頃としているところが多いです。

就活のタイミング

就活を開始するおすすめのタイミングは、ご自身が就職したいと思う時期の『半年前』頃です。

人員の配置や必要な採用人数が確定してくるのが半年前頃なので、採用側が内定を出しやすくなります。また、もし内定が得られなくても、ピーク時に再度就活をすればいいので、気持ち的にも余裕をもてると思います。

※新卒の方は、新卒採用枠から応募するのか、一般枠から応募するのかによって、タイミングが異なりますので、注意が必要です。

また、就活を始める際はエージェントに登録することをおすすめします。

エージェントに登録すると、無料で相談や面談を実施してもらえるので、自分の保有資格や経験について客観的な市場価値を知ることができますし、就活に対する相談やアドバイスを聞くことができます。専門家に相談して、効率的に就職・転職活動を進めていきましょう。

こまったときは!!

一人で悩まずに就職・転職サポートのプロ、大原キャリアスタッフへご相談ください。



就職・転職に関するご相談は

大原キャリアスタッフ

<https://www.o-hara.ac.jp/career/>

※エリアによりサービス内容が異なります。

次回のVol. 5 号は 5 月発刊の予定となります。

WIN

ウィン Vol.4

●第28巻第4号通巻233号 ●2024年3月2日発行

●発行所/大原簿記学校 〒101-0065 東京都千代田区西神田1-2-10



最新の受験情報満載!

大原の税理士メルマガ 毎月無料配信中!

メルマガ登録はこちら→ <http://www.o-hara.ac.jp/goukaku>

大原 メルマガ 検索